



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん
北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



信州新町
久米路峡

「心してゆけ久米路橋」と県歌信濃の国でも歌われた名勝の地、「雉も鳴かずば」の民話の舞台としても有名です。川幅が狭く大きくカーブした流れは、たびたび洪水を引き起こしてきました。美しい景観を守りながらの解決策は、川の湾曲部分の上流と下流を大トンネルでバイパスする方法。完成した久米路第二河川トンネルは、横幅15^{メートル}長さ176.5^{メートル}、断面は150平方^{メートル}で、これは新東名高速の三車線道路トンネルに匹敵する大断面とのことです。何気なく走っている道路の下に、こんな巨大な構築物があったとは驚きです。今では安心して行け久米治橋といったところでしょうか。

- 長野しんきん月例調査レポート…………… 2
- 企業アンケート 環境に配慮した企業経営 ② …… 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン…………… 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (87) 須坂…………… 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



概況 全産業

生産は2カ月連続の低下 前年同月比は7カ月連続の上昇

◇2021年8月の長野県鉱工業指数

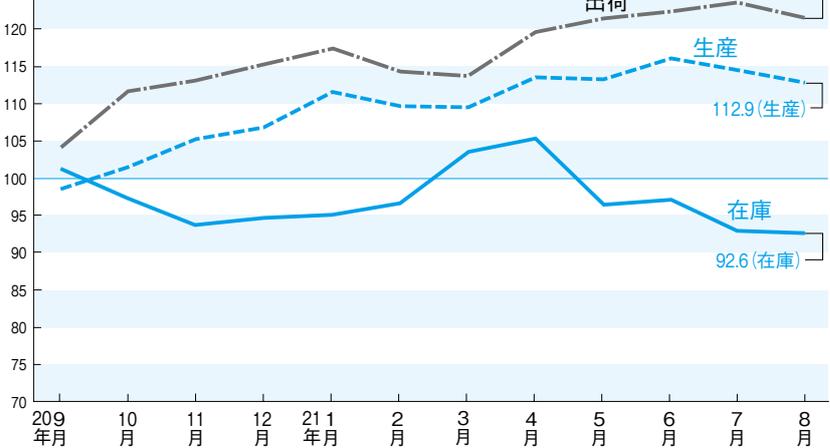
(速報：季節調整済指数)

生産は112.9(前月比▲1.4%)で2カ月連続の低下、出荷は121.7(同▲1.8%)で6カ月ぶりの低下、在庫は92.6(同▲0.3%)で2カ月連続の低下となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は102.2(前年同月比+18.8%)で7カ月連続の上昇、出荷は109.8(同+20.1%)で11カ月連続の上昇、在庫は92.7(同▲6.9%)で2カ月連続の低下となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移
(2015年=100/資料：長野県)



- [生産] 上昇…情報通信機械、化学、食料品など4業種
低下…輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、電気機械など13業種
- [出荷] 上昇…電子部品・デバイス、食料品、化学など4業種
低下…輸送機械、電気機械、情報通信機械など13業種
- [在庫] 上昇…電気機械、その他、情報通信機械など8業種
低下…はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、紙・紙加工品など8業種

月例調査

全産業の「売上高」は減少

前回調査 2021年8月

◇10月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回到比べ「増加」割合(32

%)が6ポイント減少、「減少」割合(35%)が7ポイント増加、「不変」割合(34%)は1ポイント減少、全体としては減少の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比 (3ポイント以上の動き) ↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
改善 不変 悪化

業種	前回	今回	改善	悪化	回収率	30人未満	30人以上
全産業	37.6 →	31.5 ↓	35.0 ↑	27.4 ↓	197社(83.8%)	73.6%	26.4%
製造業	40.6 ↓	31.5 ↓	34.0 →	25.0 ↑	200社(85.1%)	74.0%	26.0%
建設業	31.3 →	31.3 →	34.3 ↓	34.4 ↑	64社(76.2%)	60.9%	39.1%
卸小売業	21.7 ↓	21.7 ↓	34.8 ↑	43.5 ↑	64社(90.1%)	92.2%	7.8%
サービス業	37.5 →	37.5 →	50.0 ↑	12.5 ↓	46社(90.2%)	78.3%	21.7%
輸送業	25.0 ↓	25.0 ↓	25.0 ↓	50.0 ↑	8社(88.9%)	87.5%	12.5%
外食業	20.0 ↓	20.0 ↓	20.0 ↓	60.0 ↑	8社(80.0%)	12.5%	87.5%
					10社(100.0%)	60.0%	40.0%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」食料品・金属加工・自動車部品・精密機械が減少し、全体も減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(41%)が6割減少、「減少」割合(25%)が3割増加、「不変」割合(34%)が3割増加で、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	46.4	31.9	21.7
	今回	増加 40.6	不変 34.4	減少 25.0
食料品	21.4	21.5	57.1	
金属加工	50.0	20.0	30.0	
一般機械	50.0	50.0	0.0	
電気機械	50.0	50.0	0.0	
自動車部品	25.0	75.0	0.0	
精密機械	33.3	33.4	33.3	

[業種別] 増加…一般機械・電気機械

減少…食料品・金属加工・自動車部品・精密機械

[機械稼働] (前回比) 稼働率 上昇

上昇割合 (17%) → 25%

下降割合 (16%) → 17%

[受注状況] 受注量 (前回比) 下降

増加割合 (20%) → 19%

減少割合 (19%) → 23%

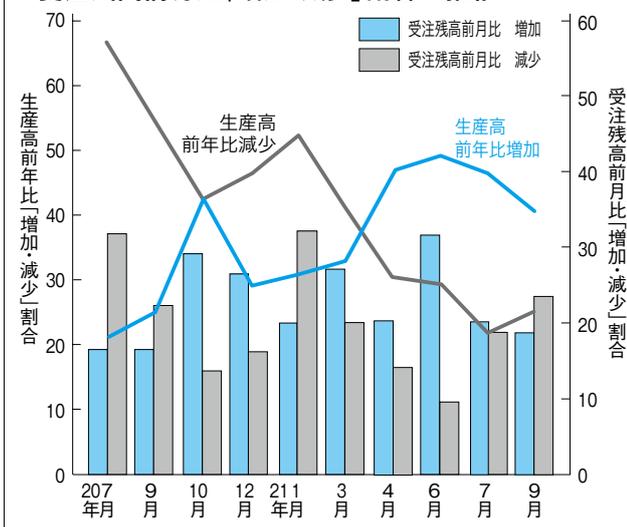
受注残高 (1.7ヵ月) → 1.6ヵ月

[受注基調] (前回比) 下降

上昇割合 (26%) → 20%

下降割合 (13%) → 23%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(%)

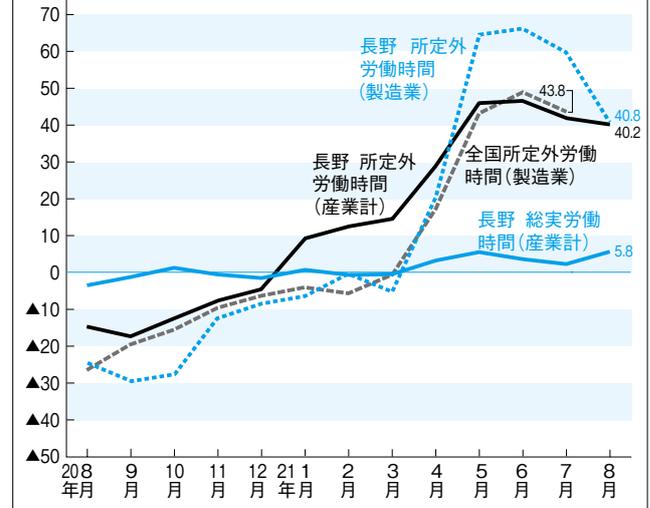


企業からのコメント

- ☆気候変動による原材料の仕入れを心配していたが、確保できそうで安心している。年末に向けて一層ピッチを上げていきたい。(そば)
- ★☆原料価格の上昇および燃料費の増加の影響を心配している。商品の販売状況は良くなってきているように思う。(農産物加工)
- ★☆電子部品用の材料は引き続き不足しており、単価も高止まり。ただし、一部に一服感が出始めており、年末までがピークだろう。(電子部品)
- ★コロナ感染は落ち着いてきたが、まだ受注状況は低調。材料等も値上げ基調のため、今後は受注回復の施策が重要だと考える。(シールラベル)
- ★部品の値上がりに加え、下請けの加工賃の値上がりが続いている。そのため、納入日がかかなり遅れている物もある。(コンプレッサー)

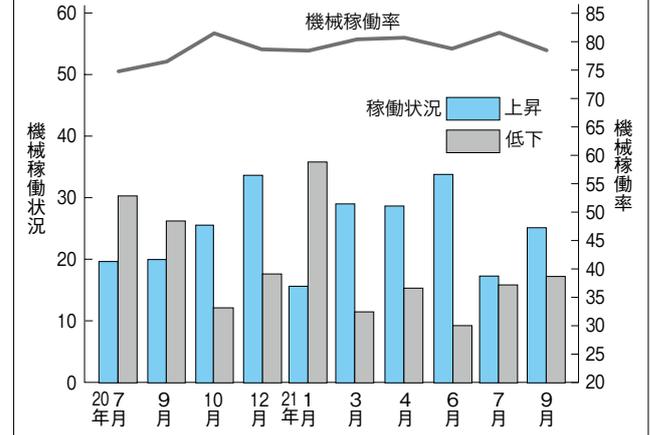
●長野県の労働時間の動き(前年同月比)

規模30人以上(%) / 資料:長野県・厚生労働省



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移

(%) / 資料:当金庫



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」土木工事・各種設備が増加するも、全体は減少

概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前年に比べ「増加」割合(31%)が1割増加、「減少」割合(34%)が11割増加、「不変」割合(34%)が12割減少、全体としては減少の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	30.5	45.8	23.7
	今回	増加 31.3	不変 34.3	減少 34.4
総合建設業		30.0	40.0	30.0
土木工事業		33.3	25.0	41.7
建築業		31.8	45.5	22.7
各種設備業		45.5	27.2	27.3

【業種別】 増加…土木工事・各種設備

横ばい…総合建設

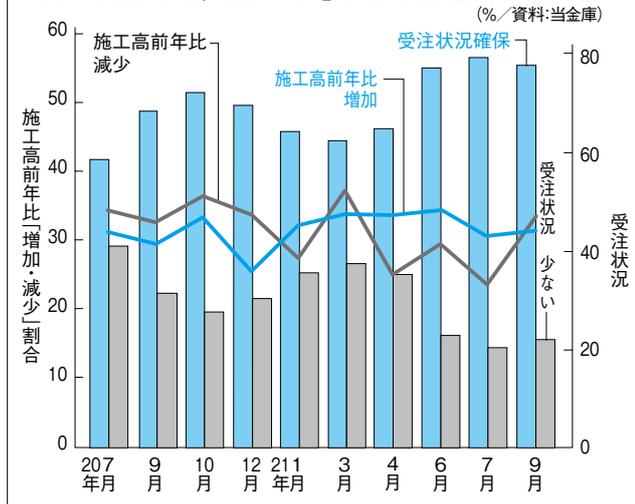
減少…建築

【受注状況】 受注残高(前回比) 横ばい

「多い・適正」割合 (79%) → 78%

「少ない」割合 (21%) → 22%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移



企業からのコメント

★民間の住宅建築の受注は増加傾向にあるが、利益率は厳しい状況が続いている。(総合建設)

★一昨年の台風災害の復旧とコロナ禍の影響で、通常発注される土木工事が減少している。(土木工事)

★鋼材価格が高値のまま推移しており不安である。また、来年の春以降の受注も不透明である。

(鉄骨・鉄筋工事)

4～9月の公共工事(東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～9月の発注合計は、1,619.4億円(前年同期比▲9.7%)となりました。前年比プラスは「国」の356.1億円(同+11.4%)、マイナスは「県」の455.8億円(同▲15.7%)、「市町村」の402.7億円(同▲18.0%)で、「その他」の399.7億円(同▲7.4%)でした。

北信地区市町村の発注合計は92.7億円(同▲32.2%)で、うち長野市は35.2億円(同▲51.5%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2021年9月/2021年4月～9月累計)

(単位=百万円/資料:東日本建設業保証株)

		2021年9月	前年同月比	2021年4月～9月	前年同期比
長野県	国	1,842	▲30.3%	35,605	11.4%
	県	4,465	▲24.3%	45,583	▲15.7%
	市町村	5,410	▲28.2%	40,266	▲18.0%
	そのほか	1,947	▲80.0%	39,967	▲7.4%
	合計	13,706	▲46.9%	161,943	▲9.7%
北信地区	市町村	1,898	▲24.2%	9,269	▲32.2%
	(内長野市)	787	▲41.7%	3,515	▲51.5%

4～9月の新設住宅着工戸数

長野県の4～9月の新設住宅着工戸数は6,219戸(前年同月比▲1.4%)でした。持家が3,848戸(同12.0%)、貸家が1,513戸(同▲12.5%)、分譲が853戸(同▲3.4%)、給与が5戸(同▲98.1%)です。

北信地区の4～9月の新設住宅着工戸数は1,807戸(同8.3%)でした。持家が1,064戸(同12.4%)、貸家が461戸(同1.5%)、分譲が281戸(同10.2%)、給与が1戸(同▲91.7%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(2021年9月/2021年4月～9月累計)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	9月	174戸	52戸	43戸	0戸	269戸
	(内長野市)	110戸	48戸	35戸	0戸	193戸
	前年同月比	27.9%	30.0%	138.9%	—	38.7%
	(内長野市)	41.0%	54.8%	169.2%	—	58.2%
	4～9月	1,064戸	461戸	281戸	1戸	1,807戸
前年同期比	12.4%	1.5%	10.2%	▲91.7%	8.3%	
長野県	9月	693戸	292戸	122戸	0戸	1,107戸
	前年同月比	19.7%	24.8%	17.3%	—	20.7%
	4～9月	3,848戸	1,513戸	853戸	5戸	6,219戸
前年同期比	12.0%	▲12.5%	▲3.4%	▲98.1%	▲1.4%	

卸小売業

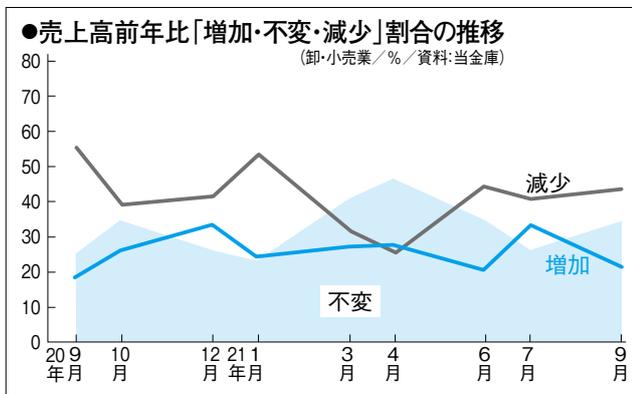
卸売業、小売業

「売上高」卸売・小売ともに減少

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(22%)が12ポイント減少し、「減少」割合(44%)が3ポイント増加、「不変」割合(35%)が9ポイント増加し、全体として売上は減少の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	33.3	26.2	40.5
	今回	増加 21.7	不変 34.8	減少 43.5
卸売業		16.7	27.7	55.6
小売業		25.0	39.3	35.7



【業種別】減少…卸売業・小売業

9月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……100.3(12カ月ぶりプラス)

(前月比+0.3%、前年同月比+0.5%)

上昇…「被服及び履物」「光熱・水道」「食料」

「保健医療」「住居」

下落…「教養娯楽」「交通・通信」

◇生鮮食品を除く総合指数…100.2(2カ月連続プラス)

(前月比+0.1%、前年同月比+0.4%)

企業からのコメント

☆野菜類は、全体的に高値で安定している。果物類は、シャインマスカットが売上の2割を占めており、これは驚異的な数字である。(青果卸)

★巣ごもり需要で好調だった電化製品の購入意欲も、ここに来てめっきり低調になった。(家電販売)

★コロナと政治に天候不順が重なり、全てがマイナスイメージとなる。消費者の心が穏やかでなければ、消費意欲も増えないだろう。(和洋菓子)

☆★コロナの緊急事態宣言も解除になったが、第6波がいつ来るか心配である。選挙がらみで方針を決めてほしくない。(土産品)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」サービスは増加、輸送・外食は減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は横ばいの38%、「減少」割合は13ポイント減少の13%、「不変」割合は13ポイント増加の50%と、売上は増加の状況です。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は5ポイント減少の25%、「減少」割合は10ポイント増加の50%、「不変」割合は5ポイント減少の25%と、売上は減少の状況。タクシーは減少、運輸は増加です。

外食業 売上高前年比「増加」割合は24ポイント減少の20%、「減少」割合は38ポイント増加の60%、「不変」割合は13ポイント減少の20%と、売上は減少の状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比43ポイントの減少、前年同月比も17ポイントの減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は16ポイント増加の33%、「引合いやや増加」は22ポイント増加の22%でした。

企業からのコメント

★コロナ感染症の第5波が長引いて、売上が大きく減少となった。新しい生活様式の定着もあり、夜間の動きはなかなか戻らない。(タクシー)

☆★新型コロナの影響は、落ち着きをみせているが、依然として荷動き等は流動的であり、予断を許さない状況である。(トラック)

☆コロナの感染者が減少し、週末は県外ナンバーの来店者が特に増えてきている。(そば店)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	37.5	37.5	25.0
	今回	増加 37.5	不変 50.0	減少 12.5
輸送業	前回	30.0	30.0	40.0
	今回	25.0	25.0	50.0
うちタクシー業		8.8		100.0
うち運送業		40.0	40.0	20.0
外食業	前回	44.4	33.4	22.2
	今回	20.0	20.0	60.0

SDGsに取り組んでいるか

「取り組んでいる」13% 「これから取組む」29% 「取組む予定はない」28%
「内容がわからない」19% 「全く知らない」6%

SDGsに取り組む際の課題

「取組む方法がわからない」28% 「人材がない」18% 「取組む意義・メリットが不明」19%
「従業員の理解が得られない」6% 「課題はない」9% 「取組む予定はない」20%

SDGsの取組み 「すでに取組んでいる」は1割強(13%)に過ぎませんが、「これから取組む予定」が3割弱、「内容がわからない」が2割弱となりました。「取組む予定はない」は3割弱です。

SDGsに取り組む際の課題 「取組む方法がわからない」が最も高く3割弱(28%)、「取組む意義・メリットが不明」と「人材がない」がそれぞれ2割弱、「従業員の理解が得られない」が6%となりました。「課題はない」は1割弱、「取組む予定はない」は2割です。

%)に過ぎませんが、「これから取組む予定」が3割弱、「内容がわからない」が2割弱、「全く知らない」が6%となりました。「取組む予定はない」は3割弱です。

従業員規模で見ると、30人未満は「内容がわからない」(21%)が30人以上より9割高く、30人以上は「すでに取組んでいる」(24%)が30人未満より15割高くなっています。

業種別

「すでに取組んでいる」建設 16%～卸小売 10%
「これから取組む予定」サービス 32%～卸小売 24%
「取組む予定はない」卸小売 36%～サービス 23%
「内容がわからない」サービス 21%～製造 17%
「全く知らない」サービス 9%～製造 4%

製造業 「聞いたことがあるが、内容がわからない」(17%)と「全く知らない」(4%)が他業種に比べて最も低くなりました。

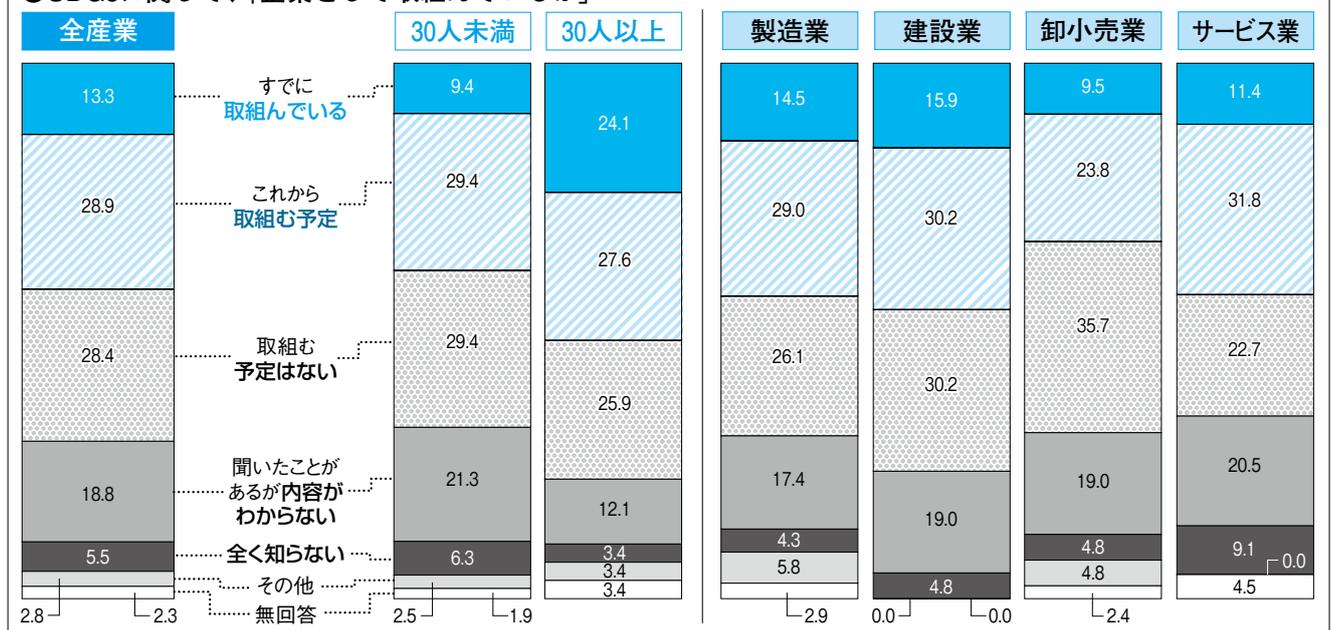
建設業 「すでに取組んでいる」(16%)が他業種

SDGsの取組み

「すでに取組んでいる」 13%
「これから取組む予定」 29%
「内容がわからない」 19%
「全く知らない」 6%
「取組む予定はない」 28%

「SDGsに関して、企業として取組んでいるか」を聞きました。「すでに取組んでいる」は1割強(13

●SDGsに関して、「企業として取組んでいるか」(%)



に比べて最も高くなりました。

卸小売業 「取組む予定はない」(36%)が他業種に比べて最も高く、他方「すでに取組んでいる」(10%)と「これから取組む予定」(24%)が他業種に比べて最も低くなっています。

サービス業 「これから取組む予定」(32%)と「内容がわからない」(21%)、「全く知らない」(9%)が他業種に比べて最も高くなりました。他方「取組む予定はない」(23%)は他業種に比べて最も低くなっています。

SDGsに取組む際の課題

「取組む方法がわからない」	28%
「取組む意義・メリットが不明」	19%
「人材がない」	18%
「課題はない」	9%
「従業員の理解が得られない」	6%
「取組む予定はない」	20%
「その他」	6%

「SDGsに関して、取組む際の課題は何か」を聞きました。「取組む方法がわからない」は3割弱(28%)となり、次いで「取組む意義・メリットが不明」が2割弱、「人材がない」が2割弱、「従業員の理解が得られない」が6%となり、「課題はない」は1割弱、「取組む予定はない」は2割です。

従業員規模で見ると、30人未満は「取組む方法がわからない」(29%)が7割、**「取組む予定はない」**(23%)が9割それぞれ30人以上より高く、30人以

上は「人材がない」(24%)が30人未満より8割高くなっています。

業種別

- 「取組む方法がわからない」 サービス 32%～製造 22%
- 「取組む意義・メリットが不明」 製造 23%～卸小売 17%
- 「人材がない」 サービス 25%～卸小売 14%
- 「課題はない」 卸小売 14%～建設 6%
- 「従業員の理解が得られない」 製造 9%～サービス 2%
- 「取組む予定はない」 建設 25%～卸小売 12%

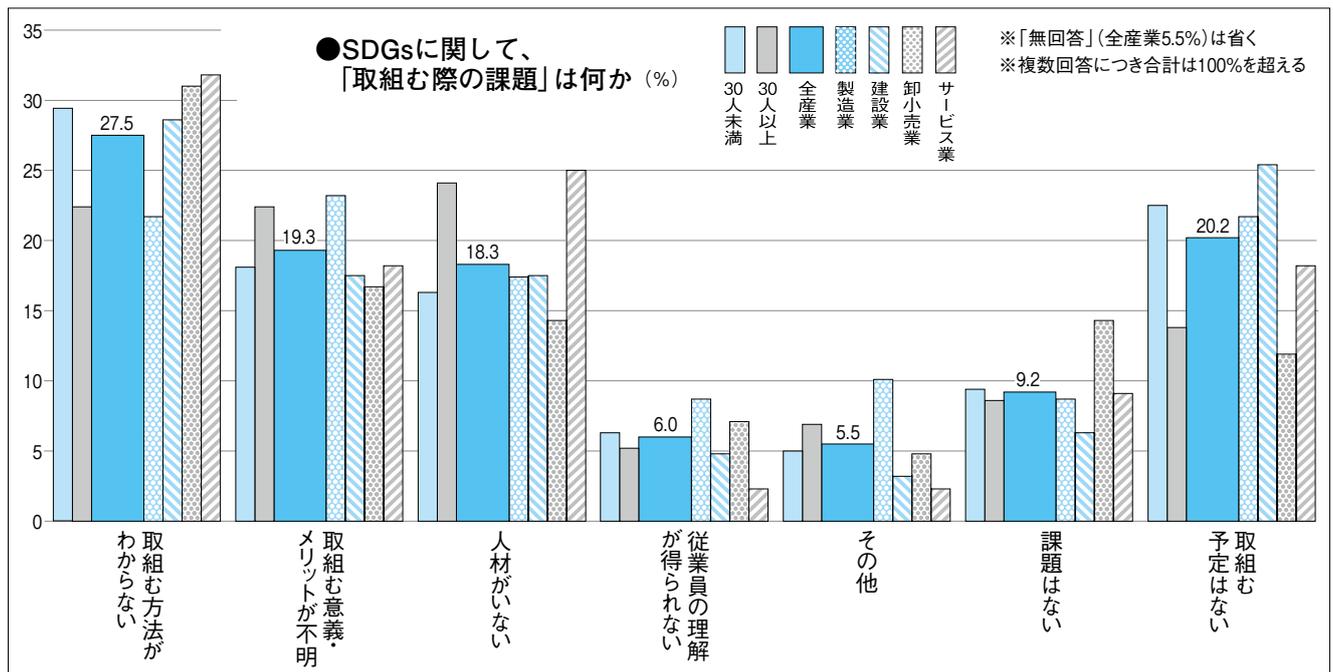
製造業 「取組む意義・メリットが不明」(23%)と「従業員の理解が得られない」(9%)が他業種に比べて最も高く、他方「取組む方法がわからない」(22%)は他業種に比べて最も低くなっています。

建設業 「取組む予定はない」(25%)が他業種に比べて最も高く、他方「課題はない」(6%)は他業種に比べて最も低くなっています。

卸小売業 「課題はない」(14%)が他業種に比べて最も高く、他方「取組む意義・メリットが不明」(17%)と「人材がない」(14%)、「取組む予定はない」(12%)は他業種に比べて最も低くなっています。

サービス業 「取組む方法がわからない」(32%)と「人材がない」(25%)が他業種に比べて最も高く、他方「従業員の理解が得られない」(2%)は他業種に比べて最も低くなっています。

◇次号は「環境経営やSDGsに取組む際の支援策」と「SDGsや地球温暖化対策に取組む際の考え方」を予定





より堅固で快適な 本物の家づくり

伊東建設株式会社
代表取締役社長 伊東紀義さま

●創業の経緯についてお伺いします…

もともと建築大工であった私の祖父が1954(昭和29)年、飯山市天神堂に“伊東建築”を創業したのが当社の始まりです。その後、昭和45年に法人化して伊東建設(有)とし、さらに昭和55年に組織変更して伊東建設(株)となっています。祖父には3人の息子がいて二代目の社長には長男(私の父)がなり、その後を継いで次男(現会長)が三代目の社長になりました。

平成7年に事業の進展に伴い、本社を下木島に新築移転し、地元では「イトケン」の愛称で親しまれながら現在に至っています。新幹線の飯山駅駅舎や長野信金飯山支店さんも当社が施工させていただきました。また三男である叔父は、太陽光発電の運営会社を設立し、地元飯山と岐阜県で売電事業を行っています。

●社長になられた経緯をお聞きします…

平成28年、三代目の伊東博幸(現会長)が飯山市商工会の会頭に就任したのを機会に、年齢のことも考慮し、このタイミングで四代目の社長として私が就任しました。私は高校卒業後、東京の中央工学校という建築専門学校を卒業し、昭和60年から5年ほど長野市内の建設会社に勤めていましたが、平成元年に現伊東建設に入社しました。

入社後は、主に公共建築と一般住宅などの現場代理人等の業務に就き、平成5年以降からは事業拡大のなかで建設全般(土木業等)にも携わるなどして、様々なことを学んできました。

●事業の概要についてお聞きします…

当社の事業内容は総合建設業になりますが、今後も公共物件(建築、土木)から一般住宅まで

幅広い分野で活動させていただき、地域の方々の住生活や安全に過ごせるため施設を整備し、より地域に貢献できるように事業展開しております。

メイン業務は一般住宅建築になります。ご存知のように、飯山市は「多雪地域」です。そのため雪国対応として、木材はほかの地域に比べて、サイズアップやより強固な材料を使用するなどして、積雪に強い住宅作りを目指してきました。近年、構造計算や新しい構造具材を取り入れて、さらに多雪に対応できる住宅建築を目指しています。

今後、超高齢化社会になると「屋根の雪下ろし」が重労働で、危険な作業になってきます。最近では、土地が広い場合「自然落雪」のケースが多くなっていますが、通常、屋根の雪を自然に落とすには「落雪角度(四寸勾配)」とあって、1mで40cm上がる勾配をつけます。これは雪国ならではの建築方法です。

最近の飯山の住宅は、この自然落雪型に変わってきています。屋根の上で雪を溶かす方法もありますが、ランニングコスト等がかかるため、あまり普及はしていません。

●コロナ禍の影響や対応をお聞きします…

飯山市内で建設中の大型施設を昨年の秋に請け負ったのですが、新型コロナウイルスの影響や設計変更などの見直しがあり、実際に着工したのは今年の春先でした。またその頃より「ウッドショック」があり、当初請けた金額の約1.4倍の材料費がかかってしまいました。

木材は代用品も考えられますが、その代用品さえも値上がりしている状況です。現在、全国的にみると、建築現場は入荷が遅れる状況が続いています。当社はそれほど影響を受けていませんが、木材以外の建築資材費が全体に高騰しています。

「ウッドショック」は、中国とアメリカの住宅購入の増加で、世界の木材が両国に流れたことが原因ですが、ある程度の在庫なら日本企業も抱えています。全く入らない状況ではないのですが、輸入材料を各社が取り合っている状況です。

今後の予測は、徐々に回復すると思っています。

●今後の夢や方針について…

当社を含め建築業界は“人手不足”に悩まされています。とくに若い人材が不足しています。当社も「働き方改革」を行い、若い人材が働きやすい環境を整備している状況です。いずれにしても、生産性を上げるのが一番の目的で、やはりスムーズな現場運営など、全員が一丸となって意識

改革をしていかないと、この先も落ち込んでしまいます。そんな環境下、来春、久しぶりに当社にも新卒者が入社してくれるので期待しています。

また、SDGs(持続可能な開発目標)にも取り組んでいます。環境問題に関しては、住宅建築や土木工事関係の企業は、率先して行動をしていかなければいけない状況ではないでしょうか。



▲飯山駅



▲長野信用金庫飯山支店



▲施行事例



本社外観

●事業の概要

創業 1954(昭和29)年
資本金 3,000万円
代表者 伊東 紀義
従業員 23名(男21名・女2名)
業務 建築工事業、土木工事業
事業所 飯山市大字下木島11番地 1
URL <http://www.itokk.jp/>

●沿革

1954(昭和29)年 個人営業にて伊東建築を創業
1970(昭和45)年 伊東建設有限会社を設立
1980(昭和55)年 株式会社に組織変更
2016(平成28)年 伊東紀義が代表取締役社長に就任

北信濃 江戸時代の風景

(87) 須坂

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、江戸時代に善光寺門前で売られていた観光案内図「信州川中嶋古跡順道手引草之図」を、少しずつ切り取って紹介します。今回は須坂を中心とした部分です。左が北、右が南になっています。

中央を南北(右左)に千曲川が流れています。千曲川の東側(上部)が須坂を中心とした高井郡で、西側(下部)は現在は長野市になっています。犀川が「大豆島」の、現在の落合橋付近で合流しています。

山田温泉

左上の「山田湯」は、高山村の山田温泉です。中世に開かれたとの伝説がありますが、現在の山田温泉は寛政年間(1789~1801)に松川湯から引湯して開かれました。小林一茶が訪れたほか、明治以降も森鷗外、与謝野晶子、会津八一など、多くの

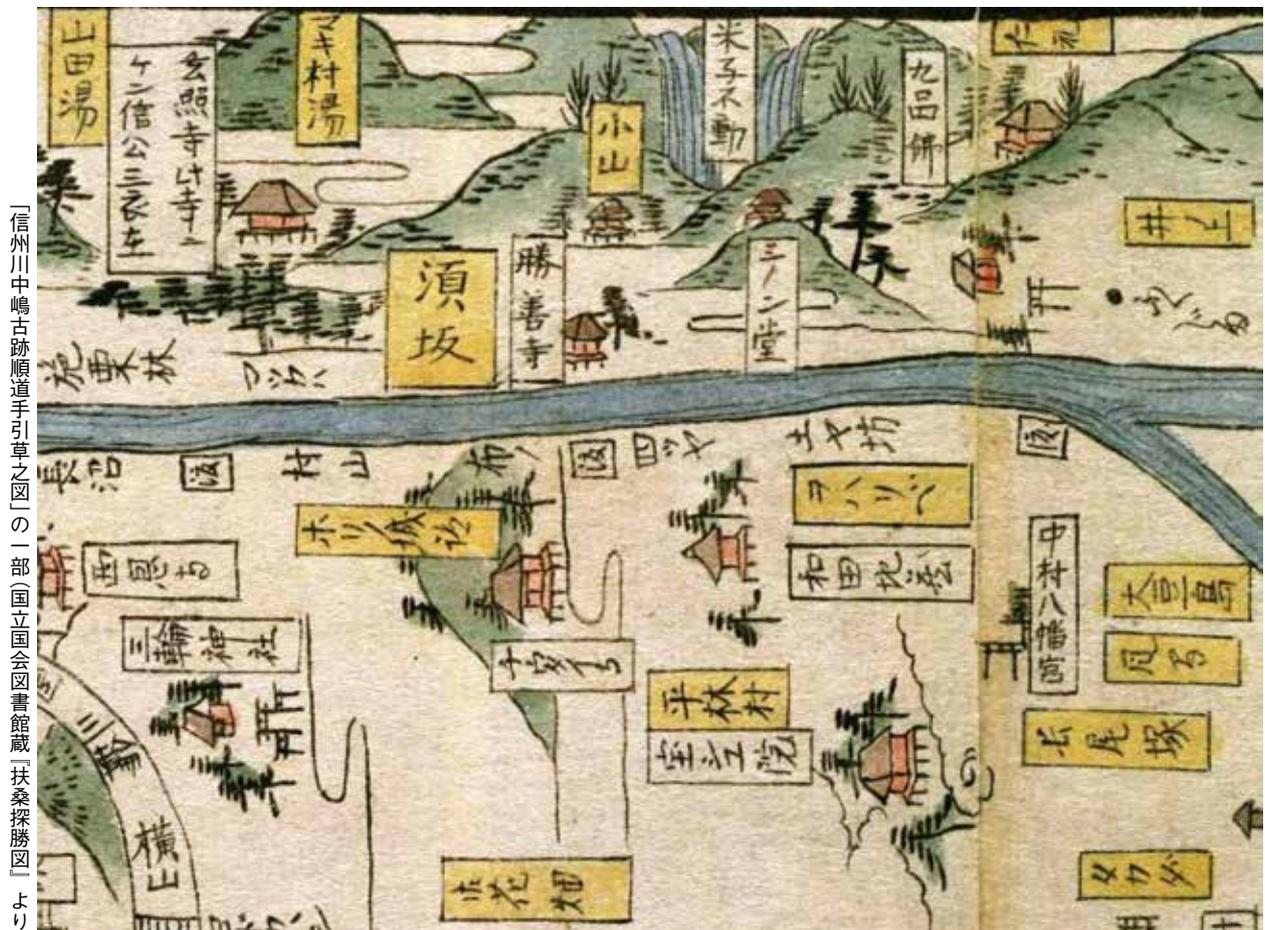
文人墨客が訪れています。

「山田湯」の右の「マキ村湯」は、山田温泉手前の、現在の高山村牧地区にあった温泉でしょう。この地区には現在も子安温泉、YOU遊ランドといった温泉があるので、古くから温泉があったのでしょう。

小布施

「山田湯」「マキ村湯」の下は小布施で、千曲川沿いに「(小布)施栗林」と書いてあります。栗林からは栗年貢が納められ、最上級の栗は献上栗として松代藩を通して幕府に献上されました。小布施は現在も、栗の産地として知られています。

「山田湯」と「マキ村湯」の間に、「玄照寺、此寺ニケン信公三衣在」と書いてあります。その右には寺院が描かれています。玄照寺は小布施町大島にある曹洞宗の寺院で、本尊の釈迦如来像と三門



「信州川中嶋古跡順道手引草之図」の一部(国立国会図書館蔵 扶桑探勝図)より

は町宝に指定されています。

この寺には、上杉謙信の三衣(三種の袈裟)が伝わっていたというのです。

須坂

「マツカハ」(松川)を渡ると「須坂」です。須坂藩(1万石)は城を持っていないので、城下町とは言えず、陣屋町に分類されています。藩主の住む陣屋は、現在の常盤町の奥田神社の位置にありました。

勝善寺

須坂市本上町にある、真宗大谷派の古寺です。普願寺(須坂市小山南原町)、光蓮寺(長野市西尾張部)、西巖寺(長野市長沼大町)などとともに、井上氏によって開かれた磯部六ヶ寺の1つとされています。

小山

「勝善寺」の右上に「小山」とあって、寺院が描かれています。「小山」は小山村で、須坂(須坂村)と隣接しているので、須坂と一続きの町のようになっていました。田中本家のある穀町、普願寺のある南原町などが旧小山村で、現在は須坂市大字小山となっています。「小山」の下の寺院は、南原町の普願寺(浄土真宗本願寺派)でしょう。この一帯は、寺町の雰囲気をよく残しています。

米子不動

「米子不動」の両側に、権現滝(左)と不動滝(右)が描かれています。いずれも国の名勝に指定されている秘境の名所です。滝の近くに米子不動尊の奥の院がありますが、里堂は須坂市米子の不動寺(真言宗)です。

蓑堂

「米子不動」の下に「ミノン堂」があって、山の上に堂があります。これは信濃三十三観音の第9番札所、蓑堂みのんどうです。本尊の十一面観音は、現在は麓の民家にまつられています。

九品仏

「ミノン堂」の右上に「九品仏」とあって、寺が描かれています。これは須坂ではなく、長野市若



蔵の町須坂の中央通り

穂綿内の蓮台寺(真言宗)です。「九品仏」というのは、九種(九体)の阿弥陀如来で、京都府木津川市の浄瑠璃寺に安置された九品仏が有名です。蓮台寺も九体の阿弥陀如来が並んでいて、壮観です。1体が平安末から鎌倉時代の作で、国の重要文化財に指定されていますが、残りの8体は火災に遭って江戸時代に補われたものです。

仁礼

「九品仏」の右上にある「仁礼」(須坂市仁礼町)は、菅平の登り口で、上州に抜ける大笹街道の宿場でした。大笹街道は、福島宿ふくしま(須坂市福島町)から仁礼宿を通り、菅平、鳥居峠を経て大笹宿(群馬県嬬恋村大笹)に通じていました。公式な街道ではありませんが、北信濃から江戸に出る近道として利用されました。

井上

右端の「井ノ上」は須坂市井上で、信濃源氏井上氏の発祥地として知られています。井上氏は中世に中国地方に広がり、その子孫からは、幕末維新に活躍した井上馨や、日本の鉄道まさるの父井上勝などが出ています。

12月号は「安茂里」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

★プラゴミ削減のため一日頃から実行していること

「マイバッグの使用」75% 「ごみの分別」75%

「詰め替え製品の利用」45% 「リサイクル回収への協力」37%

「マイボトルの使用」28% 「割りばしやストローを断る」14%

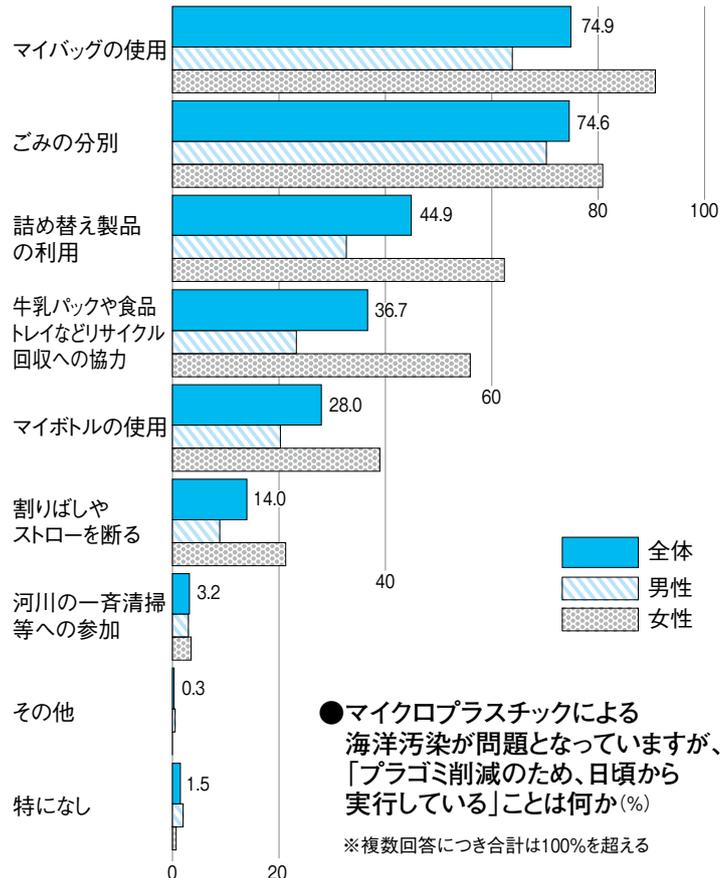
◎[女性]と[30～40代]が高い傾向

「マイクロプラスチックによる海洋汚染が問題となっていますが、プラゴミ削減のため、日頃から実行していることは何か」を聞きました。

最も高かったのは「マイバッグの使用」と「ごみの分別」で、ともに75%です。次いで「詰め替え製品の利用」(45%)、「牛乳パックや食品トレイなどリサイクル回収への協力」(37%)、「マイボトルの使用」(28%)、「割りばしやストローを断る」(14%)と続き、「河川の一斉清掃等への参加」は3%でした。

男女別で見ると、「特になし」と「その他」を除いて女性が高く、上位6項目は女性が男性を11～33%上回っています。

世代別で見ると30～40代が最も高く、10～20代が最も低くなりました。上位6項目は30～40代が、10～20代を19～47%上回っています。〈当金庫・2021年9月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [12月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
12月 2日 木	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	12月 14日 火	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)
3日 金	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	17日 金	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)
7日 火	長池支店 (大豆島支店)		21日 火	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
8日 水	豊野支店	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	22日 水	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
9日 木	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)	24日 金	本部	
13日 月	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)	27日 月	本部	

